

中央大学学員会 中大技術士会支部

ニュースレター vol.59

暑かった夏の日々も、ようやく終わりが見えてきました。皆様いかがお過ごしでしょうか？
新型コロナウイルス対応が5類に引き下げられ、世間では、行事・イベントの類が徐々に復活して
きました。都内では、外国人観光客の姿もコロナ禍以前の様相に戻ってきております。

お陰様で、中大技術士会も、皆様のご理解・協力のもと、少しずつ活動が、戻りつつあります。
その一つとして、5月に中大法曹会との勉強会・交歓会を実施、盛況のうちに終了しました。交
流は、今後も継続してゆきます。その様子は報告として坂林会長より寄稿いただいております。

また、今回から幹事でもある山下三雄さんより、マネジメントに関する寄稿を頂きました。本
寄稿は内容が濃く、これから6回に渡る連載となります。現在、監理者の立場にある方は、もち
ろん、今後、監理者の立場になる若い技術士・技術者の方には是非とも触れていただき、継続研
鑽の一助としていただければ幸いです。（最終頁に URL と QR コードを紹介しています。）

本ニュースレターでは、会員の皆様からの情報・投稿をお待ちしております。合格体験談も大
歓迎です。名前を売り、夢や目標を実現する一助としてください。思わぬ繋がりがあります。
それでは、ニュースレターをお楽しみください。

| 内 容 | ページ |
|---|--------|
| 巻頭言 | 2 ページ |
| ■ 「新型コロナウイルス禍後の中大技術士会の活動について」： 中大技術士会副会長 武安真児さん（情報工学・総合技術監理部門） | 2 ページ |
| 活動報告 | 3 ページ |
| ■ 幹事会 | 3 ページ |
| ■ 部会報告 | 3 ページ |
| 活動計画 | 4 ページ |
| ■ 企画部会活動計画 | 4 ページ |
| ■ 大学支援部会活動計画 | 4 ページ |
| 活動報告（詳細）寄稿 | 5 ページ |
| ■ 「中大技術士会・中大法曹会交歓会の報告」： 坂林和重さん（電気電子部門） | 5 ページ |
| リレーエッセイ | 6 ページ |
| ■ 「我が村度なき人生（社会人編）」： 山下三雄さん（建設・総合技術監理部門） | 6 ページ |
| 受験体験記 | 10 ページ |
| ■ 「学部4年間の基礎復習」： 小西優一さん（電気電子部門） | 10 ページ |
| エッセイ | 11 ページ |
| ■ 「マネジメントの基礎シリーズ」推薦のことは： 酒井正三郎さん（中央大学名誉教授、元中央大学総長・学長） | 11 ページ |
| ■ 「マネジメント基礎シリーズ」の連載にあたって： 山下三雄さん（建設・総合技術監理部門） | 12 ページ |

■ 「新型コロナウイルス禍後の中大技術士会の活動について」:

武安 真児さん（情報工学・総合技術監理部門）

中大技術士会会員の皆様、今年の夏は猛暑が続いていて大変な夏となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

昨年までは、新型コロナウイルス禍に翻弄され、中大技術士会も十分な活動ができませんでした。新型コロナウイルスは5月8日に「5類」に分類されるようになり、世の中も徐々に正常に戻ってきていて、以前のような活動ができる環境が整いつつはありますが、まだ、感染者数もなかなか減ってこないようで、新型コロナウイルス禍以前には簡単には戻らないようです。夏になっても7月からまた感染者も少し増えつつあり、注意深く世の中の活動を進めていく必要があります。



中大技術士会でも、昨年度の定時総会は感染状況も考慮しつつ、年度末の今年3月11日に後楽園キャンパスとオンラインの併催により開催致しましたが、今年度になって、中央大学法曹会との交歓会を5月12日に5年ぶりに駿河台キャンパスにて対面で開催することができるようになり、多くの方の参加を得て盛大に開催することができました。

大学も4月から正常には近づいているとはいえ、なかなか3年間の空白を埋めることが難しく、中大技術士会の活動も以前の様な活動をすぐには行えない状況にあります。

例えば、今年の理工白門祭が以前のように開催されるということで、現在中大技術士会が理工白門祭に以前と同様に出席できないか、理工白門祭実行委員会と連絡をとっていますが、前回参加したのは2019年の理工白門祭で、そのときのことを知っている学生は、既に卒業していないため、以前と同様に参加することは難しいかもしれません。

以前参加したときには、中大技術士会の出展については、10年以上参加していたため、毎年の実行委員会の間で引き継いでいただいていたので、問題なく参加できていたのですが、3年間のブランクは4年間という在学期間の中では大きく、さらに出展手続きの内容等も以前とは異なっていて、以前のようにはいかなくなっています。

新型コロナウイルス禍からの回復に合わせて、中大技術士会もこれから活動をいっそう進めていかなければなりません。今後活動を進めていくためには、会員の皆様のご協力が必要と思っています。

現在、中大技術士会は、幹事会を中心として様々な活動を行っておりますが、ここ3年間活動が十分でなかったこともあります。新しい幹事の方があまり増えておりません。一方で幹事の平均年齢も上がってきて、一部に辞めた方もおられますので、これからは活動が難しくなることが予想されます。

そこで、会員の皆様の中で幹事になって中大技術士会の活動に関わりたいとお思いの方がおられましたら、是非幹事会に参加して中大技術士会を盛り上げていただければと思います。

中大技術士会は2004年に創立され、来年創立20周年を迎えますが、会員の皆様のご協力を得て、20周年記念大会を盛大に開催したいと思っております。

会員の皆様の中で幹事会に参加してみたいという方がおられましたら、参加するだけでも構いませんので、幹事会宛て（[mail:toiawase@chuo-u-pej.org](mailto:toiawase@chuo-u-pej.org)）にご連絡ください。

中大技術士会会員の皆様の幹事会へのご参加をお待ちしております。

活動報告

■ 幹事会報告

| 項目 | 開催日程 | 内容 |
|--|----------------------------|---|
| 2023 年度 第 2 回幹事会 (ハイブリット 会議) 対面：中央大学 駿河台キャンパ ス 18F 学員会議室 オンライン (ZOOM) | 7 月 21 日(金) 18:00~19:00 | <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>2023 年度中大技術士会定時総会について</u> 2024 年 6 月予定の 20 周年記念総会を勘案し、本年度秋定時総会は簡素に行うこととし、会員のみオンライン総会とする。 2. <u>技術士第一次試験の模擬試験について</u> (主務：坂林会長、國島幹事長) 8 月中旬 問題作り 9 月印刷、配布 (模擬試験の 1 カ月前) 10 月 14 日 (土) 模擬試験 11 月 26 日 (日) 本番試験 3. <u>2024 年度当会創立 20 周年記念総会について</u> (主務：坂林会長、武安副会長) 2024 年 6 月に記念総会予定 想定は、50~60 名出席、他大学からも参加・挨拶あり、食事は立食とする。 通常総会での交流会を 20 周年記念祝賀会として開催する。 4. <u>2024 年度創立 20 周年ニュースレター記念号発行について</u> (主務：小林副会長) 2014 年度の創立 10 周年ニュースレター記念号を参考にし て計画する。 2024 年 5 月発行 6 月配布予定。 5. <u>2024 年度秋大技連年次総会の開催について</u> (主務：鈴木幹事、佐藤幹事) 中大駿河台キャンパスでの開催を予定。当会 20 周年イベントとの連携を考慮。 鈴木幹事から大技連担当退任希望あり。 今後後任を検討する。 6. <u>国友副会長、退任挨拶</u> 会社の役職・所掌の変更等により止む無く退任とのことで、承認された。 |

■ 活動報告

○企画部会報告

| 項目 | 内容 |
|--------------------------|---|
| 法曹会との交歓会 (詳細内容は、別途あり) | 日時：2023 年 5 月 12 日 (金) 18:30~21:30 ①講演会 会場：中央大学駿河台キャンパス 18 階学員会議室 1 時間：18:30 ~ 19:40 講師：中大技術士会幹事長 國島 旭 氏 (技術士：機械部門、総合技術監理部門) 講演：「法曹会から中大技術士会に依頼のあった道路工事現場で起きた車両事故の控訴対応について (民事)」 ②交流会 会場：矢まと 御茶ノ水店 (時間：19:45 ~ 21:30) |

○大学支援部会活動報告

| 項目 | 内容 |
|------------|--|
| 第1次試験の願書配布 | <p>2023年11月26日(日)に実施される第1次試験の受験願書を配布した。試験の実施日程は、下記である。</p> <p>受験申込書配布期間 令和5年6月9日(金)～6月28日(水)</p> <p>受験申込受付期間 令和5年6月14日(水)～6月28日(水)</p> <p>これに伴い、10月14日(土)に中大技術士会主催で模擬試験を予定する</p> <p>筆記試験日 令和5年11月26日(日)</p> <p>合格発表 令和6年2月下旬(2月26日が予想されている)</p> |

○広報部会活動報告

| 項目 | 内容 |
|------------|---|
| サーバー運営 | 新規入会者の登録などメーリングリストのメンテナンス |
| ニュースレターの発行 | ニュースレターvol.59の作成、発行 |
| HP新規掲載 | ニュースレターvol.58の掲載 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> 理工白門祭に合わせて11月4日(土)に理工ホームカミングデーが計画されています。会場は5533教室(5号館5階) 20周年記念誌の準備に着手 |
| 会員の皆様へのお願い | <p>① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org</p> <p>② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談など、何でも構いません。皆さんからの積極的な応募をお待ちします。</p> <p>③ 会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「<u>趣味</u>」や「<u>近況報告</u>」を共通テーマとしたリレーエッセイを(Vol.36)より開始しました。執筆依頼がありましたら、躊躇せずに投稿をお願いします。</p> <p>また、リレーエッセイの投稿をご希望の方は遠慮無く、toiawase@chuo-u-pej.orgまで、お問い合わせください。</p> |

活動計画

■ 企画部会活動計画

| 行事 | 日程 | 内容 |
|-----------|----------------------------|--------------------------|
| ホームカミングデー | 10月29日(日) 多摩キャンパス | 詳細未定 出店依頼があれば、出店を検討する |
| 理工白門祭 | 11月4日(土)～5日(日) 後楽園キャンパス | 「無料相談会」として出展する予定 |

■ 大学支援部会活動計画

| 行事 | 日程 | 内容 |
|-----------|-----------|---|
| 第1次試験模擬試験 | 10月14日(土) | 第1次試験の模擬試験を実施する。 基礎科目・適性科目・専門科目(機械、化学、建設、環境) |

■ 「中大技術士会・中大法曹会交歓会の報告」：坂林和重さん（電気電子部門）

皆さんこんにちは。坂林和重です。

先日 5/12（金）に中大法曹会と交歓会を行ったので、報告などをしたいと思います。

中大技術士会・中大法曹会交歓会は、新型コロナ感染拡大の影響で前回 2018 年 5 月以来、5 年ぶりとなりました。

詳細内容は、下記のとおりです。

1. 講演会（講演と意見交換）

参加者は、おおよそ 60 名程度でした。非常に盛況で座席が不足気味でした。

講演会では、当会の國島幹事長から「法曹会から中大技術士会に依頼のあった道路工事現場で起きた車両事故の控訴対応について（民事）」と題して講演をしていただきました。

内容は、中大法曹会から故内藤堅一前会長を經由して國島幹事長へ支援要請がありました。

第 1 審では、敗訴しての支援要請です。第 2 審では、國島幹事長が技術的解析をして勝訴が濃厚となり和解となりました。逆転しての和解（実質の勝訴）です。

中大法曹会関係者は、法律の専門家です。中大技術士会は、技術の専門家です。中大法曹会と中大技術士会との協力関係の好例と思います。

終了の挨拶では、中大法曹会の会長様から「ぜひ今後も中大技術士会とコラボしていきたい」との挨拶がありました。



写真 1 講演の様子

2. 交流会（懇親会）

交流会では、お酒を酌み交わしながら大いに盛り上がりました。弁護士の皆さんは、裁判で技術的な問題が出た時の相談相手に困っているようでした。特に最近では、AI 技術・chatGPT・自動運転・ロボット技術など新しい分野もあります。弁護士の皆さんから「ぜひ相談に乗ってください」との意見が出ていました。

今回は、中大法曹会からの相談が話題になりましたが、逆に中大技術士会から法律相談でお願いすることもあると思います。（実は、坂林の経営している会社の顧問弁護士は、中大法曹会の会員です）

中大法曹会に限らず公認会計士や不動産などもあります。支部間交流を活発にして支援活動がさらに進んでいけばと思います。



写真 2 交流会の様子

■ 「我が村度なき人生（社会人編）」

山下三雄さん（建設・総合技術監理部門）

昭和 63 年夏、日曜日の午後、広島市安芸区瀬野のとある田んぼの脇に今日も私の車が止まっている。

私「こんにちは」

N 氏「-----」（私を全く無視している）

こんな会話（になっていないが）が日曜日ごとにずっと続いていた。N 氏は瀬野の土地区画整理事業にとって非常に重要な位置にある土地の所有者で、N 氏の事業に対する同意をいただかないことにはこの事業を始めることができないと言っても過言ではありませんでした。（たまたま丁度重機を最初に搬入する位置の土地を所有されていました。）

何か月くらいたったであろうか？N 氏も根負けしたのか、やっと重い口が開かれる時がやってきました。

私「こんにちは」（次の最初の言葉を今でも鮮明に覚えています。）

N 氏「あんたもようけ来るのう。わしが死んだら話を聞くけえ、そしたら来んさいや。」

私「-----」

それから私は日曜日ごとに N 氏に会いに行き（当時はデートする彼女もなく時間が充分にありました。英会話の塾でお会いした食事や映画に行っただけの京都大学法学部卒業で今では弁護士事務所の所長をしている司法修習生や広島選挙区選出の参議院議員のご令嬢はいましたが。ひょっとすると今頃は議員の「地バン・看バン」を引き継いで永田町界隈で「先生」と呼ばれていたかもしれません??）少しずつ事業のことを聞いていただけるようになり、しばらくしてとうとう N 氏の同意を得ることができ、瀬野の山並みにブルドーザーの高らかな音がこだまするようになったのは、平成元年の暮れも押し迫った頃のことであった。

私は大学卒業後当時の中堅ゼネコン「青木建設」に就職し、ブラジルでのウォーターフロントのリゾートプロジェクトのフィジビリティ・スタディの仕事を終え、帰路本社の社長からの指示に従って、ブラジルで一緒に仕事をしたハーバード大学卒業の MBA の経営コンサルタントの紹介による、当時売りに出ているニューヨーク近郊のスキーリゾートの調査も行いました。

帰国後 32 歳の若かりし働き盛りの時に（写真参照、自称「ちょっぴり太めの二枚目」？）広島支店開発営業部に配属され、土地区画整理手法の大規模都市開発事業のプロジェクト・マネージャーとして 10 年余り担当しました。地権者をはじめ許認可権者の諸官公庁等のステークホルダーとの交渉及び土木設計会社に対する指示・監理をほぼ一人で一手に引き受けていましたが、冒頭で述べたのはその初めの頃のエピソードです。

私が瀬野で学んだ人生にとって最大の収穫は、人間誠意をもって話せばわかってくれる時がきっと来るということです。しかしこんなお涙頂戴の浪花節がいつも通用するほど世の中は甘くはないことも事実です。そして最も大切なことは、相手の立場に立って物を考えることです。すると思いつかなかった世界が見えてくることもよくあることです。給料をもらっている組織のことしか考えていないようでは、まず相手の本音を聞き出すことはできません。サラリーマンとしては少し辛いのですが、時には自分の所属している会社の（筆者注：あえて言い訳を言えば「短期的な」という形容詞をつけさせていただきます。）利益に反する行動をとらなければならないことだってあります。とはいうものの私の「俺が、俺が」の生まれつきの？性格はいつまでた



っても治らない私の生涯をかけたテーマでもあります。

「青木建設の山下さん」ではなく「青木建設の」という冠詞が相手の目に見えなくなったとき、すなわち「あれっ、こいつはいくらか自分のことを考えてくれているのかな。」と思われたときにはじめて相手も本音を話し始めます。相手の本音が分からなければ全くお門違いの対応になってしまいものごとが全く進みません。私は会社に帰って地権者の立場で物を言うことが多く、支店長からはよく「山下君は、どこから給料をもらっているのかね。」と言われました。また組織的には辞令をいただいているのにどういうわけか私の職務の査定をしていた組織的には上司でない現場所長に対しては、時折意見が合わず対立していました。ある日面と向かって「私はあなたの部下ではない。」と捨て台詞まで言ってしまい、そのせいかボーナスはずっと低空飛行を余儀なくされました。またまた決して忸度しない性格が蘇ったようです。今ではいくらか円くなって、サラリーマンには適度な忸度も自らのためにも必要なのかなといくらか宗旨替えをしつつありますが、それでも怯むことなく地権者の立場を尊重するスタンスを貫きたった10か月という短期間で、地権者120人のうちの90%を超える同意書の取得に成功し、会社の時間リスクを大幅に低減することができました。また土地取得の先行投資のために要した約16億円を銀行に預ければ当時の金利約6%で計算すると1年間で約1億円の利息が付きます。従って経済学でいうところの「機会費用」※が1億円/年となり、時間リスクの評価額も同額です。すなわち同意取得が1年間遅れると会社が同額だけ利益を失うこととなります。当時の私の会社における開き直ったときの殺し文句は、「同意が遅れて1億円失ってもいいのですか？」でした。

※機会費用：その活動を行ったために失った利益のこと。意思決定に影響しないすでに費消された「埋没費用」とともに会計上は費用又は原価としては計上できません。

当時の私を低く評価した現場所長とは私がその後ヘッドハンティングにより移籍した建設コンサルタント会社の常務取締役東京支店長だったころ、中国の上海における現場監理の仕事の照会があり、専務取締役大阪本店長でもって会社を引退していた彼に大阪の「ミナミ」で会い一献を傾けお話ししたところ快く引き受けてくれました。翌日私のパソコンに「久しぶりにうまい酒が飲めた。」とのお礼のメールが入りました。残念ながらこの仕事は日の目を見ませんでした。ここここに至って私の評価が上がっても何の経済的な恩恵はありませんが、人の評価は最後で決まると考えておりますので、私も70歳を超しこれからの勝手に考えていますが、できれば20年余りの人生が非常に大切であると考えています。シェークスピアの創作した劇に「All is well, that ends is well」（「終わりよければすべてよし」）⇔「有終の美を飾る」）があります。私もいよいよ人生の最終章を迎えております。従ってちょっと大げさですが、今後の約20年間で私がこの世に存在した評価及び価値が決定されることとなります。どんなに実績を積んでも最後に躓けばすべてが「水の泡」になって失われてしまいます。私も身近にそんな人を見てきました。誠に惜しいことです。

平成2年頃のある日、私が先ほどのとある田んぼの畦道を歩いていると、
N氏「おーい山下君、今夜あたり、一杯飲みに行こうや。」
私「いいですねえ。」

その頃は「いけいけどんどん」の右肩上がりの時代で私が使える交際費は青天井で、よく他の営業部長や土木部長から頼まれて常に2,30万円分の「流川」のクラブの請求書を抱えていました。出入りの業者からは領収書を回すようにと言われたこともありましたが、たった1回しかせず？派手な飲み方は一切しませんでした。N氏との間ではN氏がそれで言いたいこともセーブする

ことにならないよう原則ほぼ割り勘を徹底しました。

N氏と私との間の垣根がいったん取り払われてしまうと、親しい間柄になるまでにそれほど時間を必要としませんでした。これも同じころのある日のこと、私は農業用水のことで、当時当地の水利組合のリーダーを務めてもいたN氏の同意をいただきに行きました。

私「今日は農業用水のことで、-----」

N氏「まあええから、ハンコならほらどこにでも押しとけや。」

と言って私の話などろくに聞きもしないで印鑑を渡してくれました。

私「Nさん、よく見てくれなくっちゃ、訳の分からない書類に印を押すかもしれまへんで。」

N氏「-----?」

人の信頼を得るのは並大抵のことではありませんが、その信頼を失うのは誠に簡単なことです。たった一言でいいのですから。まさにある哲人が言ったように「建設は死闘、破壊は一瞬」です。私が諸般の事情で会社を辞め瀬野を離れるにあたっては、この事業についてのご同意を最後までいただけなかったお二人からも信頼を勝ち取りご同意をいただき、心温まるお饞別までいただいたことは、まさに涉外担当として「役者冥利に尽きる」ことであり本当に涙が出る思いでした。私のその後の人生のまさに基盤を築いた10年でした。

青木建設退職後は建設コンサルタントに転職し、ISO9001品質マネジメントシステムやアーンドバリュー方式を採用した工程/原価の同時監理を目指した社内独自のプロジェクトマネジメントシステムの構築、さらに同業の別会社へのヘッドハンティングで移籍し、いきなり取締役東京支店長に就任し支店の統括監理という経営者の視点も学ばせていただきました。また環境省の職員としてフクシマの再生も経験しましたが、この仕事が私の人生において最大に辛いものでした。地元の人に話に行ったところ一言も話さないのにいきなり殴られメガネがひん曲がりました。こちらは加害者である国の立場であり、その殴られた痛みを通して被害者の怒りをいやでも感じざるを得ませんでした。

さらに中大技術士会のご推薦及び大学側のご厚意により母校理工学部の兼任講師及びゲストスピーカーとして文科省には一切忖度することなく時の政権に対する批判を含めて6年間好き勝手なことを言わせていただきました。民主主義の根本原則である言論・学問の自由がなければ、大学のレゾンデートル(raison d'etre)はありませんし、まさにこれが損なわれれば自殺行為です。最後はあくまでも自ら判断することを大前提であることを断ったうえで、学生諸君に①データ・文書の改竄は絶対にしないこと、②どう考えてもおかしいと思ったときは大きな声を上げること、③そのおかしいことには自らの立場が悪くなったとしても手を染めないこと、④技術のことしかわからないスペシャリットではなく、できれば文科系の知識である法律・経済・経営・会計・金融等の基礎的なこと、さらに英語は当然であるが中国語等を身に着けること、すなわちジェネラル&グローバル・マネージャーを目指すことを訴えました。我が誇りの中大法学部が今年待望の茗荷谷移転が実現しますので大きなチャンスです。これまで仕事と人に恵まれてきましたが、いよいよ残された大事な人生を実りあるものにしたいと考えています。これからが私にとってまさに最後の勝負のときで、「憎まれっ子世に憚る」の緊張感をもって生きていく決意です。

これまでの約40年間余り平日の1日たりともほぼ休まずに続けてきた英語を始めとする6か国語(仏・独・西・伊・中)のNHKのテレビ・ラジオの視聴、さらにそれぞれの検定試験及び昨年失敗した日商簿記試験の昇級、これまで基礎的な勉強を進め関連資格を取得してきた前述の文科系の知識の総まとめとして生きているうちに「中小企業診断士」にチャレンジするつもりです。

まだまだのんびりしている暇は一生ありません。「勝鬨よーい、えいえいおー！」(←当時学生集会でよく声を張り上げました)

(補足) 合意形成のコミュニケーションはあくまでも Face-to-face が原則であります。さらに言えば「聴」の漢字を分解すれば「耳+目・心」となるように、「傾聴」から Heart-to-heart の「共感」の段階までに達することが理想です。まさに「聴く力」さらに「人間力」が求められます。

(どこその国の行政のトップは国民の 60%を超える反対にもかかわらず、国葬を断行するなど「聴く力」の看板倒れが早くも露呈されたようです。)

アメリカの著名な心理学者ヴァーガスによれば、今でいはいかに便利なツールであってもインターネットやスマートフォン等の文字によって伝達できるのはそのコミュニケーション内容の約 35%にすぎないそうです。また AI がいくら進歩しても最後まで解析できないのは合意形成に必須のこの世で最も複雑な人の心の内です。結婚して 30 年余りがたつのに、いまだに我が愛する女房殿の心の内が今一つ分からないことが多いのが何よりの証明です。(愛されているかどうかも今だに分かりませんか?)

最後にいつも受取った皆様に好評を博している私の年賀状の今年の文面を紹介します。「お互いにゾーとする新婚生活以来の夫婦二人だけの生活もどうか 1 年を無事に過ごすことができました。(秘訣：女房殿のご意見には 95%反対しないこと。敢えて 5%を実行すると何倍もの返り血を浴びることを賢明な父は学習しています。) 智輝君は(私の下の息子で私の勧めた我が中大理工学部の合格を辞退して東京理科大学大学院を卒業し、今はソニーグループの技術研究所に就職して研究生生活を続けています。何を研究しているのかは企業秘密とやらで父にも全くわかりません。おそらくはソニーが参入を目論んでいる自動車の自動運転技術の研究ではないかと思いますが。昨年パリに出張しさらに今年はタイミング宜しくチャールズ国王の戴冠式のまさにその日にロンドンに出張していました。大学院時代にネバダ州の砂漠での宇宙で使うカメラを積んだロケットの発射実験を兼ねて、レンタカーを借りての LA から NY までの 1 か月余りのアメリカ大陸横断が彼のグローバル・デビューでありました。

長々と自己 PR もどきのことを述べてまいりましたが、ご精読ありがとうございました。このところエッセイを何篇か書かせていただきました。ご存じ歌舞伎の「白波五人男」の弁天小僧菊之助の語る決めゼリフの『知らざあ言って聞かせやしょう、浜の真砂と五右衛門が、歌に聞こえし盗人の、種は尽きねえ七里ヶ浜、その白波の夜働き、-----』の「浜の真砂」ほどまだまだネタは尽きませんが、しばらくはこのあたりでひとまずエッセイの筆を休めたいと考えております。なお、別に掲載の通り本号から 6 回連載で「マネジメントの基礎」を皆様にお送りいたしますので、どうかご愛読ください。

(蛇足) さらに私の来年の年賀状の予定している文面を紹介します。

「お互いにゾーとする新婚生活以来の夫婦二人だけの生活もどうか 2 年を無事に過ごすことができました。(秘訣 2：魔法の言葉『(心の中で) 今朝も東の空からお日様が登るのも』みんな私が悪いのよ。」但し海外においては文化の違いでたとえそうであっても自分の非をハナから認めるのは絶対にご法度です。よっぽどのことがない限り「私は悪くない。」が話のイントロです。まさに、Do as the Romans do in Rome. (中国語で、「入郷随郷」) です。

次号のエッセイの執筆はこの度幹事をご勇退される中尾さんをお願いいたします。

(参考資料)「みどり坂開発の歳月」平成 11 年 3 月、広島市瀬野川土地区画整理組合発行

「学部4年間の基礎復習」：小西優一さん（電気電子部門）

受験の動機

私は以前から資格取得（特に国家資格）を趣味としています。英語関係の資格を除いて私が初めて取った資格は第二種電気工事士でした。資格取得までのプロセスや、資格を取得し独占業務（と言っても行っているのは自宅のコンセント交換ぐらいです）ができるようになると、頑張った甲斐があり、とても充実したものでした。



他にもいろいろと資格取得をしていましたが、今一つピンと来る資格がありませんでした。そこで、今度はもう一つ難易度の高い資格である、技術士一次試験に挑戦しようと思った次第です。

受験準備並びに試験結果

私の受験勉強は、テキストである分野を勉強した後すぐに、その分野の過去問を3年分解く、という反復横跳びの考えでした。こうしてテキスト及び過去問3年分を2周から3周ほど終わらせてから、模擬試験を行いました。その結果分からないところや記憶が曖昧なところを炙り出し、その部分をテキストで復習するというサイクルを愚直に繰り返しました。

その結果、基本的に各科目正答率8割を超えることができました。基本的に試験問題は過去問から出てきますので、この過去問を学習していくスタイルで攻略できるかと思います。

しかし、本年は基礎科目において、以前と異なる出題が多かったので、過去問外からの出題にも少し警戒されると良いかと思います。

以下、私の成績を掲示します。

- 適性科目：15/15（合格点：8点）
- 専門科目：42/50（合格点：25点）
- 基礎科目：11/15（合格点：8点）

また、私が合格のために使用した参考書を以下に示します。参考になれば幸いです。

- 基礎・適性科目用教材
 - 福田 遵 著 技術士第一次試験「基礎科目」標準テキスト(第4版) 日刊工業新聞社
 - 飯島晃良 著 らくらく突破技術士第一次試験〈基礎科目・適性科目〉過去問題集 2021年版 技術評論社
- 専門科目用教材
 - 福田 遵 著 技術士(第一次・第二次)試験「電気電子部門」受験必修テキスト(第4版) 日刊工業新聞社
 - 前田隆文 著 2021年版 技術士第一次試験電気電子部門過去問題集 電気書院

受験の感想

工業の論点を網羅されている資格ですので、広範囲の学習に心が躍りました。特に基礎科目は簡単な微積から、力学、生物の話もあれば、工程管理、果ては技術史、という学部時代の授業を走馬燈の如く駆け巡る学習は、「ああ、そんな事もあったな！」と思い出してくれるものでした。まさに、学部4年間の基礎復習にふさわしい受験でした。

専門科目はプログラムや電子回路、といった弱電系ではなく、パワエレや送配電などの強電が大きなウェイトを占めているように感じました。電気理論や電動機、発電等の話題が多い試験ですので、電験との親和性が高いように思います。いい契機ですので、電験も挑戦していく所存で

す。まずは電験 3 種から始めていきます。

最も苦労したこと

授業との並行学習が最も苦労したところです。学部の授業はもちろんの事、教職も取っていましたので、教職の専門課程もかなりの負荷となりました。さらに、卒業研究の波も押し寄せ、3 足の草鞋という捌ききれない状態でした。しかし、踏ん張りを効かせ、どうにか持ちこたえて攻略しました。確かに大変なひと時でしたが、かなり充実した日々を送れ、個人的にはかなり満足のいく日々でした。再び、このような多忙な日々を過ごすべく、今でも負荷をロードしています。

現在

現在も例によって、資格マスターへの道を究めております。最近では第一級アマチュア無線技士と日商簿記 3 級の受験をしました。日商簿記 3 級はギリギリ受かりましたが、第一級アマチュア無線技士はどうか・・・自己採点の結果では受かっていますが、蓋を開けてみなければ分かりません。また、大学院へ進学したので、そちらの研究も本腰入れて行っております。ここでの研究活動も今後の技術士二次試験に生きてくる予定ですので、技術士としての心構えを持ちつつ研究も、資格取得も勤めます。目指すは技術士二次試験一発合格！

エッセイ

■ 「マネジメントの基礎シリーズ」推薦のことは：酒井正三郎さん（中央大学名誉教授、元中央大学総長・学長、(財)日中イノベーションセンター理事)

中央大学学会中大技術士会支部におかれましては、平素から中央大学ならびに同理工学部の発展にご尽力されておられますこと、心から感謝申し上げます。

さて、私の同期生で学会年次支部「白門 48 会」で一緒している山下三雄君が、この度貴支部のニュースレターに「マネジメントの基礎」シリーズを連載されるとお聞きしました。彼は、理工学部において過去 5 年間にわたり兼任講師及びゲストスピーカーとして「技術者倫理」の講義を担当され、「技術を極めるのは理工学部で学ぶ学生としてまさに本分であるが、技術しかわからないのではなく、法律・



経済・経営・会計・金融等の文科系の浅くとも広い知識を習得し、技術という部分知ではなくこれらの全体知で物事を俯瞰できるジェネラル・マネージャーに成長すること」を学生に推奨してきたとのことであります。けだし至言であり、全く同感であります。

「マネジメント」に関する知識は、ベテランの技術士におかれましては技術士事務所の経営にとっては必須のアイテムであり、また若手の技術士におかれましても職務遂行上不可欠の重要なコンピテンスの一つであります。現代の経営の神様とも称せられる京都セラミックの創業者であり、瀕死の我が国のフラッグシップ・キャリアの日本航空をわずか数年間で見事に蘇らせた稲盛和夫氏もその著書「実学」におきまして、「会計が分からんで、経営ができるか」と喝破されております。

いよいよこの 4 月から、我が法学部が理工学部のある後樂園のお隣の茗荷谷に移転しました。今後は中大のさらなる発展に向けて、地の利を生かして文科系学部との一層の連携、文理融合型の教育・研究の深化が期待されています。この度の連載は経営及び会計に関する内容ですが、可能であれば今後はさらに法律（商法/会社法・知的財産法等）・経済（ミクロ/マクロ）・金融（コーポレート/プロジェクトファイナンス）に関する続編の展開が待たれるところです。

中大技術士会のますますのご発展を心から祈念しております。

■ 「マネジメント基礎シリーズ」の連載にあたって：山下三雄さん（建設・総合技術監理部門）

本号より 6 回に亘って「マネジメントの基礎」シリーズの連載を始めます。内容は主として会計及び経営に関する以下の通りです。日本技術士会が設定した技術士に求められるコンピテンシーの一つに「マネジメント」があります。私が以前建設コンサルタント会社の常務取締役東京支店長を拝命したときに、会長から「社員全員が『経営者の視点』で仕事をするように」との指示を受け、第 3 回までの資料は社員教育用に作成したものです。第 4 回から 6 回目までは現在作成中です。



第 1 回：「財務会計の基礎（財務諸表のでき方及び見方）」

（下記 URL と右 QR コード）

URL:http://www.chuo-u-pej.org/katudou/newsletter/document/document_01.pdf

第 2 回（令和 6 年 1 月 10 日発行予定）：「経営戦略の基礎（8 つのフレームワークで競争に打ち勝とう）」

第 3 回（令和 6 年 5 月 10 日発行予定）：「マーケティングの基礎（4P と STP で顧客の開拓及び維持を図り利益をアップさせよう）」

第 4 回（令和 6 年 9 月 10 日発行予定）：「経営組織及び人的資源管理（HRM、社員のモチベーションを上げて利益をアップさせよう）」

第 5 回（令和 7 年 1 月 10 日発行予定）：「原価計算の基礎（原価を下げて利益をアップさせよう）」

第 6 回（令和 7 年 5 月 10 日発行予定）：補論「プロジェクトマネジメントの基礎：アーンドバリュー手法による工程・原価の同時管理について」

さて、第 1 回目「財務会計の基礎」の副題として「財務諸表のでき方及び見方」とし、複式簿記について述べています。日々取引の都度いわゆる「仕訳」を続け「資産・負債・純資産・収益・費用」の 5 項目の「借方（左側、「かり」の「り」の跳ねる方向）」と「貸方（右側、「かし」の「し」の跳ねる方向）」に左右対称にそれぞれの金額を記録していけば、期末には貸借対照表及び損益計算書は改めて作る必要はなく、おのずと出来上がる見事な仕組みになっていることを強調したためにあえて「でき方」と表現させていただきました。

なお、複式簿記は 1494 年に「ベニスの商人」ルカ・パチョーリの著書「算術・幾何・比及び比例総覧」で確立されたもので、我が国には 1873 年に福沢諭吉翁の著書「帳合ノ法」で紹介されました。現在ではグローバル化を考慮した会計制度の改革（コンバージェンス）が進められています。

今後とも何か質問等がありましたら以下のメールアドレス宛にご連絡ください。

you-tomo@jcom.zaq.ne.jp

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org

2023 年 9 月号 中大技術士会 広報部会 発行

中大技術士会ホームページ：<http://www.chuo-u-pej.org/>